

クイズのこたえ

クイズ1 絵の中の人（①～⑥）は、どんなバリア（障害）に困っていますか？
（なぜ困っていますか？）

回答 ①歩道にとめてある自転車がじゃまだから困っている
解説）誘導ブロックの上に自転車をとめると、視覚に障害のある人の通行のじゃまになります。自転車は決められた場所にとめましょう。

回答 ②誘導ブロックが途中で切れているから困っている
解説）誘導ブロックが途切れていると、視覚に障害のある人は迷ってしまいます。誘導ブロックは連続して設置する必要があります。

回答 ③歩道橋に階段しかないから困っている
解説）車いすを使用している人が歩道橋を渡るためには、エレベーターやスロープ（坂道）が必要です。

回答 ④グレーチング（側溝のふた）に車いすの車輪が挟まってしまったら
か困っている
解説）グレーチング（側溝のふた）の溝の幅が広いと、車いすの車輪や杖などが挟まってしまう場合があります。

回答 ⑤歩道と車道に段差があるから困っている。
解説）歩道と車道の段差は、車いすやベビーカーなどを利用される方にとってはじゃまなものです。でも、視覚に障害のある人にとっては、段差があることで歩道と車道の区別が付き迷わないという面もあるのです。

回答 ⑥車両の乗り入れ部に傾きがあって通りにくいから困っている。
解説）車両乗入れ部は、進む方向に対して横方向に傾いています。車いすを使用している人は、その傾きによって通行しにくくなります。

クイズ2

回答 イ)
解説）日本は、2025年頃になると、65歳以上の高齢者が全人口の3分の1を超えると予想されています。

クイズ3

(Q1) 回答

ウ)

解説) 線上ブロック: 4本以上、点状ブロック: 5列×5列以上、
大きさ: 300mm×300mm以上とし、ブロックの大きさに合わせて
線や点の数を増やすことが、道路設計のためのガイドラインに定め
られています。

(Q2) 回答

イ)

解説) 視覚に障害のある人にとっては、輝度比が1.5以上あれば誘
導ブロックを認識しやすく、視覚に障害のない人にとっては、輝度比
が2.5を超えると誘導ブロックに違和感を感じる(景観にそぐわない
と感じる)人が多いとされています。これらのことから、どちらの人
にとっても問題のない輝度比は1.5~2.5程度であるとされています。

(Q3) 回答

ア)

解説) 舗装材のつなぎ目に凹凸を付けて、相互に噛み合わせるこ
とで段差ができにくくしてあります。

(Q4) 回答

ア)

解説) 道路設計のためのガイドラインでは、通常5%いかにし、やむ
を得ない場合においては8%以下にすることができるとされています。

(Q5) 回答

イ)

手すりの側面(手すりの支えがある側)に点字を貼り付けることで、
手すりを握る時に自然に指先が点字に触れるようにすることができ
ます。

(Q6) 回答

イ)

車いすが一回転するためには、直径1.5mの広さが必要であるとさ
れています。

(Q7) 回答

ア)

誘導ブロックの延長線上にマンホールがあっても連続的に敷く(貼
る)ことが望まれます。これによって進行方向にそってスムーズに歩
けるようになります。

(Q8) 回答 ウ)
横断歩道の手前では、停止線と点状ブロックを2列に並べることが基本となるため、1は?です。2と3については記述のとおりです。

(Q9) 回答 ☆正解はありません。
歩道と車道の段差は、視覚に障害のある人にとっては歩道と車道の境界を認識するためのサインとなりますが、車いすを使用する人や高齢者にとっては段差がない方が移動しやすいのは明らかなです。道路設計のためのガイドライン（国土交通省）では、交差点付近の歩道と車道の段差の目安を2cmとしていますが、名古屋市では0cmと定めており、考え方に応じて対応がさまざまなのです。

(Q10) 回答 イ)
一般に視覚に障害のある人は、左手で点字を読みながら右手に点筆（点字用のペン）をもって読み書きの練習をされるため、左手で点字を読まれる方が多いのです。ですから、左側にバス停の展示案内を設置するのが望ましいと言えます。

(Q11) 回答 イ)
当初は、視覚障害者用横断帯（エスコートライン）を横断歩道前後の誘導ブロックとつなげていましたが、雨水や土砂がたまって安全性や維持管理面で課題となりました。最近では、縁石の部分に視覚障害者用横断帯（エスコートライン）を設置して誘導の連続性を保ちながら、雨水の排水や土砂の堆積にも配慮するという方法が採られています。